

平成 20 年 10 月－平成 21 年 9 月期 JPS 領域 2 第 3 回役員会 議事録

日時： 2009 年 9 月 25 日（金）17：30－20：00

場所： 熊本大学黒髪キャンパス（日本物理学会 2009 年秋季大会会場）YP 会場

出席者： 田中，居田，菊池，吉村，樋田，河村，古川，重森，荒巻

報告：

- （1）次回（2010 年 5 月）プラズマ宇宙物理 3 学会合同セッションについて報告があった。

議題：

（1）新役員候補と役割分担について

- ・新役員候補が承認された：

領域（新）副代表	菊池満	日本原子力研究開発機構
役員（世話人）	重森啓介	大阪大学
役員（世話人）	井通暁	東京大学
役員（世話人）	荒巻光利	名古屋大学

- ・現役員は以下の通り（青字は 2009 年 9 月で任期終了）：

領域代表	田中和夫	大阪大学
領域副代表	居田克巳	核融合科学研究所
領域前代表	石原修	横浜国立大学
役員（世話人）	草野完也	海洋研究開発機構
役員（世話人）	比村治彦	京都工芸繊維大学
役員（世話人）	渡邊智彦	核融合科学研究所
役員（世話人）	石井康友	日本原子力研究開発機構
役員（世話人）	吉村信次	核融合科学研究所
役員（世話人）	樋田美栄子	名古屋大学
役員（世話人）	河村徹	東京工業大学
役員（世話人）	古川勝	東京大学
役員（世話人）	利根川昭	東海大学

・役割分担案（2009 年 10 月から）が提案された。欠席している役員もいるので、役員にメールを出して承認をとってから決める。

・なお、物理学会正式の任期外の役員が、編集会議に参加するときは、任期内の役員の代理という形であれば、旅費が出ることを学会に確認済である旨報告があった。

（2）「領域世話人」という名称について

- ・現在の各領域内での役割を考えた場合に適切であるかどうか。
- ・適切でないと思われる場合、どのような名称が良いか。（例：領域運営委員など）領域役員を提案する。

(3) 領域世話人の任期について

・現在は「5月～翌年4月」と「11月～翌年10月」となっているが、これを、大会開催準備期間にできるだけ合わせるという意味で、一ヶ月早めた任期である「4月～翌年3月」と「10月～翌年9月」にすることに対して賛成か否か。

賛成する。

(4) プラズマ関連学協会連合打合せ(8月24日)報告と秋の分科会に関する議論(別紙資料) 別紙資料(2009年8月24日の打合せまとめ)に基づいて、連携の進捗状況について報告があった。

秋の分科会を通常の物理学会秋季大会から切り離し、連携学会として開催することについては、物理学会が主催するのが2017年とまだ時間があるので、今後議論していくこととなった。

プラズマ・核融合学会主催の第1回連携学会開催は2011年秋が予定されているが、2011年9月には天文学会主催の3学会合同セッションがあるとの指摘があった。

(5) プラズママップの作成について

比村さんに担当いただいている。

以下は出た意見の羅列： 多様であることは本質的。身近なものが題材になっている方がよい。装置写真はあまり魅力的でない。APSの図(n-T図)を参考にして下さい。一方でn-T図にはあまり賛成しないという意見もあった。KdV方程式を背景にするのは賛成。

(6) シンポジウム、チュートリアル、各企画講演の件数について

・それら企画講演の件数の多さのため、プログラム編集に支障がでている。今、上記各講演件数を2件必須(合計6件)として運営されているところを適度に緩和していただきたい。

仮に6件を保つとしても、開催希望日時を分散する根回しを事前にしていきたい。

魅力的な企画によって領域2の活動を活発にしたい。

開催希望日時については、どうしても不可の日を聞く。希望日を複数挙げてもらうようにする。

チュートリアルは初日の朝、企画講演は朝イチにするなど、タイムスロットを予め決めて、企画講演を申し込む場合は選んでもらう。

春の年会は、チュートリアルに加えて若手賞講演(表彰のみの前例あり)があり、パラレルセッションを作りづらいので、従来の企画数を緩和する。

(7) 領域2メーリングリスト(Plasma-ML)について

現在500-600名の登録があるが、100名以上は届かない状態と思われる旨報告があった。領域2ホームページと併せて、広報をてこ入れする手段を担当役員で考え、実行に移すこととなった。

(8) 若手賞について

4名の候補者の中から2名を推薦する旨提案があり、承認された。

以上

2009年9月25日
領域2役員会議 幹事 古川勝

* 参考（音声ファイルあり：090925領域2第3回役員会.mp3）

プラズマ関連学協会連合打合せ（2009年8月24日）報告

皆さん

本日プラズマ・核融合学会事務局で表記会議があり、古川さんと出席してきました。以下は、そのおおよそのまとめです。

【経緯】 此処までにプラズマ関連の連携会議として「プラズマ科学シンポジウム」は、(1) プラズマ・核融合学会、(2) 応用物理学会、(3) 学振 153 委員会の担当で、開催を一巡しました。2000年に第一回が京都で行われ、今年第三回が名古屋大学で行われました。この会議には、参加を打診されたものの、幾つかの理由があり、物理学会領域2は、参加しませんでした。

【今回】 国内のプラズマ関連の連携をベースに、「プラズマ科学シンポジウム」を新たなフェーズに乗せ、新たな展開を行う運びとなり物理学会にも参加要請が来た事から、参加の意思を表明しました。そこで、当面今年と来年の2年間、領域2からの担当役員として田中と古川さんが窓口として機能することになりました。此処までは、前回の立教大学での役員会、運営会議で議論・了承を得ています。

【まとめ】 本日、プラズマ・核融合学会、応用物理学会、物理学会の代表が集まり議論をした結果

1. プラズマ関連の連携会議 議長は、長崎大学・院・生産の藤山 寛 教授にお願いする。（彼は、プラズマ科学シンポジウムの代表幹事を2000年から続けて世話をされました）
 2. 本日出席したメンバーによるプラズマ関連の連携会議の「運営会議」を組織する。
 3. 最初の「プラズマ科学シンポジウム」は、2011年秋の開催を目指す。
 4. 最初の主担当学会は、プラズマ・核融合学会とする。
 5. プラズマ科学シンポジウムは、既存のプラズマ学会とは、独立感を出し、参加者全員が共感をもてるようにする。
- などでしょうか。

領域2からは、

1. 「プラズマ科学シンポジウム」という呼称を再考してください。（プラズマ科学シンポジウムは、応用物理学会の色彩が強く、物理学会会員からは複数の反発の意見を聞いていました）
2. 組織は、出来るだけ身軽に意志決定ができるようにシンプルなものにするよう求めました。

領域2としては、2011年の秋の分科会開催をこれに併せるためには、通常物理学会全体での会議から切り離す必要も出てくると考えます。そのためには、領域2内でのコンセンサス、理事会承認など、数々のステップを踏む必要が出てきます。実際物理学会がこの連携会議の主催担当になるのは、3年ごとの開催だとすると2011年第一回から2017年という事になります。

次回会合は、プラズマ・核融合学会年会直前の 11 月 30 日午後に関都で開催予定です。